

上手な医療機関のかかり方

安心して安全な医療を受けるためには、医療機関と患者さんが情報を共有し、信頼と協力のもとで医療を実施する必要があります。受診する際の準備や心がまえを知り、上手に医療機関にかかりましょう。

感染症の流行時期は、特に注意！！

●発熱や咳などの症状がある場合は、必ず事前に医療機関に電話して受診しましょう。

- ・新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症対策のため、通常の診察室とは別の場所で診察を行う場合があります。
- ・発熱や咳などの風邪症状が続いている場合は、直接医療機関に行かず、必ず受診方法を確認しましょう。

●受診の際はマスクを着用し、手指消毒をしましょう

- ・新型コロナウイルス感染症、季節性インフルエンザなどは、マスクの着用や消毒用アルコールによる手指消毒により予防効果が期待できます。
- ・医療機関は不特定多数の方が訪れる場所です。自覚症状がなくても、感染の可能性を減らすためにご協力ください。

●症状を的確に伝えましょう

- ・いつから、どこが、どのように具合が悪いのか
- ・今までかかった病気
- ・現在飲んでいる薬、薬の副作用の経験やアレルギー歴などを医師に伝えましょう。うまく伝えられるように、メモを書くなど準備しましょう。

●「診療時間内」に受診しましょう

- ・救急の時以外は、診療時間内に受診しましょう。救急外来では、できる検査や治療が限られることがあります。

●不安やわからないことは、遠慮せず聞きましょう

- ・不安に思うことやわからないことは、遠慮せずにしっかり聞きましょう。
- ・検査方法や治療方法について、目的やそれに伴うリスクなども確認しておきましょう。

●薬を受け取ったら、よく確認をしましょう

- ・薬を受け取る際には、薬の内容、用量、飲み方などを薬剤師に確認しましょう。
- ・飲み合わせに問題はないか、飲み忘れた場合の対応なども確認しましょう。

●「かかりつけ医」をもちましょう

- ・日頃の体調の相談や病気の早期発見、健康管理のアドバイスを受けることができます。さらに専門的な検査などが必要な場合には、総合病院などを紹介してもらえます。

【新型コロナウイルス感染症に関する相談窓口はこちら】

●北海道新型コロナウイルス感染症健康相談センター

電話 0120-501-507 (24時間)

●厚生労働省電話相談窓口

電話 0120-565653 (9時00分～21時00分 土日・祝日も実施)

●静内保健所

電話 0146-42-0251 (8時45分～17時30分 平日のみ)



健康増進だより

◎日高町役場子育て健康課
TEL 01456-2-6571
◎日高総合支所地域住民課
TEL 01457-6-3173

女性特有のがん「子宮がん」

女性特有のがんには、乳がんと子宮がんがあります。今月号では、子宮がんについて紹介します。

若い世代にも多い子宮頸がん

子宮頸がんは、子宮頸部（出産の時に産道となる場所）にできるがんで、「ヒトパピローマウイルス」と呼ばれる発がん性のウイルスの感染によって発生します。

ヒトパピローマウイルスの多くが、性交渉などの接触により感染します。

ヒトパピローマウイルスは、性交渉のある女性であれば50%以上が一生に一度はかかると言われている一般的なウイルスです。そのため、子宮頸がんは若年層でも発症の可能性がります。年齢別の発生率は20歳代後半から増加し、40歳代でピークを迎えます。

日本では、毎年約一万人の女性が子宮頸がんにかかり、約三千人が亡く

なっていることから、多くの女性にとって注意が必要な病気です。早期には、ほとんど症状はありません。進行すると「不正出血」、「膿のようなおりもの」、「性交渉の際の出血」、「下腹部の痛み」などの症状が現れます。

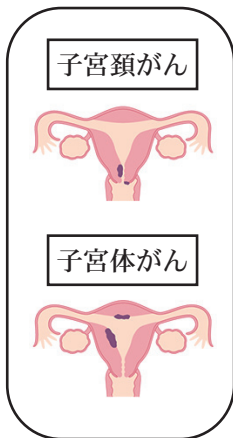
子宮体がん

子宮体がんは、子宮体部（妊娠したときに胎児を育てる場所）にできるがんで、女性ホルモンと密接に関係しています。年齢別の発生率は40歳代後半から増加し、50歳代から60歳代にピークを迎えると言われています。

子宮体がんのリスクが高い方に、出産経験のない方、肥満の方、月経不順の方などが挙げられます。

主な症状は「不正出血」です。月経ではない期間や閉経後に出血がある場合は、注意が必要です。

気になる症状がある場合は、必ず婦人科を受診し相談しましょう。



予防と早期発見

小学校6年生から高校1年生の女子を対象に、公費で子宮頸がんワクチンを実施しています。このワクチンは、ヒトパピローマウイルスのうち、子宮頸がんを起しやすいたいタイプの感染を防ぐ効果があります。

このワクチンで、子宮頸がんの原因の50〜70%を防ぐことができると言われています。しかし、接種後に多様な症状や副反応が出現する可能性もあるため、接種についてはご本人やご家族でよくご相談ください。

ワクチン接種の有無にかかわらず、20歳を過ぎ性交渉のある方は、子宮がん検診を受診し、早期発見につなげることが大切です。

がん検診では

どんなことをするの？

子宮頸がん検診では、問診、視診、細胞診、内診を行います。

問診では、自覚症状の有無・月経周期・既往歴・これまでの検診の受診歴などを確認します。

細胞診では、子宮頸部をブラシなどでこすって細胞を採取し、異常な細胞の有無を調べます。

内診では、子宮口の状態や、子宮の大きさ・形を調べます。

子宮体がん検診は、リスクの高い方

のうち、医師の指示があった場合に追加で受診します。

受けよう！がん検診

子宮がん検診は2年に1回受診することをオススメします。がん検診だけではなく、超音波検査で子宮内膜の状態や子宮筋腫の有無などを確認することで、がん以外の病気を発見することもできます。

子宮がんは早期のうちに発見すると治癒率が高いがんです。早期発見のために、定期的に検診を受けましょう。

町では20歳以上の方を対象に子宮がん検診を実施しています。次回は、3月1日（火）、札幌がん検診センターで行います。

子宮がん検診のほか、さまざまなオプション検診も受けることができます。会場まで送迎バスが出ますので、ぜひご利用ください。詳しくは、次のページをご覧ください。

